

2025 年度 大学院入試（2 月期）（国語国文学専攻）

修士課程 「専門科目」

（2025 年 2 月 18 日実施）

選考・判定方法	《専門科目（国語学・国文学）》《外国語（英語／日本語）》《口述試験》 専門科目（100 点）、外国語（英語：4 段階評価／日本語：100 点）および口述試験 （4 段階評価）により評価する。
判定基準	専門科目：60 点以上、外国語（英語）：C 以上／（日本語）：60 点以上、口述試験： C 以上のいずれも満たすこと。

《専門科目》（100 点満点）

【一】（30 点）

出題意図

国語学もしくは国文学について研究する場合に必要な、特定のテーマに沿って論じる力と基礎的知識を問うた。

正答例

《国語学専攻の受験者》……コーパスを用いた日本語研究のメリットとして、データの大規模性、検索の網羅性といったデータ収集上の利点や、内省やアンケートでは調査が困難な使用実態に基づいた量的分析が可能であることなどを述べる。デメリットについては、研究したいテーマによってはそもそもコーパスが存在しない場合があることや、検索可能なテーマに研究が偏りがちになる危険性があることなどを述べる。

《国文学専攻の受験者》……例えば古典文学の領域であれば、「邸宅」としての「家」と「一族・一門」をあらわす「家」とについて、『源氏物語』『落窪物語』『中外抄』『徒然草』などを例に述べる。近現代文学の領域であれば、「個」の自由、確立を束縛する伝統的な「家」について、島崎藤村『家』や志賀直哉『和解』などを例にあげて論じる。

【二】（20 点）

出題意図

国語国文学研究を志す上で、この程度は身につけておいてほしいという語彙力を判定するために、漢字の書き取りと漢字の読みを問うた。また、国語国文学研究において必要な論理的文章の読解力、表現力を判定するため、記述による内容説明問題を課した。

正答および正答例

問一 ①や（まない） ②たと（へば） ③わがまま ④いか（に）

問二 ある主義や思想に基づき、小説の書くべき内容や書き方を規定しようとする考え。

問三 森鷗外は明治四十二年から同四十五年に至る四年間に、現代小説を長短四十余篇書いており、その中には大変な新発明が含まれている。小説は何をどんな風に書いてもよいという宣言を行い、未知の世界に刺激を受ける精神のあり方を示した、明治四十二年五月発表の「追難」をその始まりと考えなければ、こうした現代小説の展開を説明できないから。

問四 まず詩を根本に置き、それを吟詩と読詩に二分したうちの、読詩に該当するものが小説である。ここでは最もすぐれたものが詩で、小説はその変種であり、詩よりも劣ったものとされる。

長文出典

石川淳『森鷗外』（岩波書店） 1978/7/18

【三】(20点)

出題意図

日本の古典文学を学び、理解する上で必要な、語彙力、文章力を判定するため、記述による内容説明・現代語訳を課した。

正答および正答例

問1 a 少し快方に向かい、皇居に参上した。

b 今後はどうなるにせよ、今日までは生きておりました。

c 残念なことに後日会いましょうと約束してしまった。今日が最後と言うべきだったのに。

問2 ア 少将 イ 公忠 ウ 少将

長文出典

「大和物語」

新編日本古典文学全集(12)『竹取物語 伊勢物語 大和物語 平中物語』（小学館）1994/11/18

【四】(30点)

出題意図

国語国文学を学ぶ上で必要な、基礎的な文学史および国語学用語の知識を問うた。

正答例

a 記紀に見える天皇の祖先神。天照大神の孫。葦原中国に降臨した。

b 万葉歌人の第一人者。持統・文武天皇に仕えた宮廷歌人。後世歌聖と尊崇された。

c 藤原公任が選んだ三十六人のすぐれた歌人の呼称。「中古三十六歌仙」『三十六人集』などを生むなど文学史や文化史に長く影響を与えた。

d 平安時代後期に成立した歴史物語。藤原為経（寂超）作者説が有力。「大鏡」の後を受けて執筆されて

いる。

e 鴨長明が一二一二年に執筆した隠者文学の代表的作品。人とすみかの無常について、いわゆる五大災厄などの天災・人災や自らの人生と照らし合わせながら論じる。

f 室町後期の連歌師。准勅撰連歌集『新撰菟玖波集』を撰進。「古今伝授」を実質的に創始した。

g 新井白石の自叙伝。やさしい和漢混淆文で記す。おいたち、六代将軍家宣を補佐し退職するまでを、やさしい和漢混交文でつづる。

h 江戸幕府に仕える下級武士で、狂歌師、洒落本・滑稽本作者として活躍。蜀山人、四方赤良などの別号がある。

i 島崎藤村の詩集。明治30年刊行。七五調主体の優雅なリズムと雅語によって、青春の苦悩、官能の解放などを歌った。明治期のロマン主義を代表する。

j 志賀直哉らと『白樺』を創刊。「或る女」「惜しみなく愛は奪ふ」などが著名。晩年は社会主義の台頭に神経を消耗させ、人妻と心中死を遂げた。

k 待遇表現の一種で、話題の人物や話・文章の相手に対する敬意、丁寧さを表すための表現のこと。主語を高める尊敬語、主語以外を高める謙譲語

l、自分側のことを話・文章の相手に対して丁寧に述べる謙譲語Ⅱ、話・文章の相手に対して丁寧に述べる丁寧語、事物について品位のある述べ方にする美化語の五つに分けられる。

l 平仮名や片仮名の成立以前に、日本語表記に用いられた漢字。漢字の音や訓などが活用された。万葉仮名の研究は、当時の音韻・音声などについて研究する手がかりとなる。